

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援-06

学校名・団体名	山田町立大沢小学校
HPアドレス	http://academic4.plala.or.jp/oosawa/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	郷土の将来を担う人づくり
〈活動・研究の意義、目的〉 【意義】 岩手県沿岸南部に位置する本地域は、平成23年3月11日の東日本大震災において、町全体の55.6%の家屋が被災し、816名の死者を出す甚大な被害を受けた。本校の子ども達も例外ではない。肉親を失った子ども、家を失った子どもなど当時、全校児童の90%にも及んだ。 明治津波から復興を遂げてきた先人のたくましさ、災害があってもなおこの土地で生きていく決意をした先人の心意気を描いた全校表現劇「海よ光れ」を演じることは、震災体験に向き合いつつ、郷土の将来を担う人をつくることにつながると考える。 【目的】 1 山田町や大沢を愛し、その状況を直視し、見据え、復興や発展、未来について具体的に考える事ができる子どもを育てる。 2 震災と向き合い、その体験を乗り越えながら、人の思いや痛みを知り、心やさしく、たくましく生きようとする態度を育てる。 3 「命」の大切さを知り、周囲の状況や様子を正しく判断し、主体的に考え、自分の命を自分の力で守ることのできる力を育てる。	

<活動・研究報告>

1 大沢虎舞を引き継ごう（4～6年生）

- (1) 時期 4月28日～5月22日
- (2) 内容 地域に伝わる大沢虎舞の一つ一つの役どころや動き、言葉等の意味について地域の方々から教わり、学んだことを全身で表現し舞いを作り上げ、運動会で披露した。
- (3) 成果 虎舞の伝承を通して、地域の方々の思いや郷土の歴史と文化を知り、大沢への郷土愛を深めることができた。



2 よみがえる山田の水産業（5年生）

- (1) 時期 8月～9月
- (2) 内容
社会科を関連させ、水産業従事者や水産業協同組合、魚市場等の取材活動を通して、山田町の水産業の現状を調べ、将来に続く水産業のあり方について考える。
- (3) 成果
家族や地域の方々がどのように水産業に関わっているか調べることで山田や大沢の水産業について知ることができた。さらに将来どのように水産業が発展していけばよいか考えることができた。

3 伝えよう「海よ光れ」（6年生）

- (1) 時期 9月8日～10月16日
- (2) 内容
大沢の歴史や文化を描いた全校表現劇「海よ光れ」の背景にある海の厳しさや恵み、歴史や文化、人々の知恵や工夫、苦労や思いについて総合的な時間の課題解決を通して学ぶ。
- (3) 成果
過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などを理解することができた。また、次の世代へ語り継いでいこうとする使命感をもつことができた。



4 海のパトロール（5・6年生）

- (1) 時期 10月1日（5年生）10月6日（6年生）
- (2) 内容 5年藤田悠雅さんのおじいさんの船に乗船し、山田湾を見学・観察することを通して、漁業を生業としている地域の現状について理解を深める。
- (3) 成果 全校表現劇「海よ光れ」に登場する山田湾の漁場を、実際に船に乗り確認することとて、海で生きていく厳しさや有り難さについて観察を通して学ぶことができた。



5 全校表現劇「海よ光れ」（1～6年生）

- (1) 実施日 11月1日
- (2) 内容 この地で漁業を生業として生きてきた大沢の人々の昔からの暮らしぶりや助け合い、また、恵をもたらしてくれる海の大切さなどを、大沢村と呼ばれていた明治の頃から現代まで時をさかのぼって描いた「海よ光れ」を5・6年生が村人や船頭や語り部などの役になり表現する。1～4年生は、舞台下で大沢の海を縦波や横波を全身で演じる。
- (3) 成果 子ども達は、明治津波から復興を遂げてきた先人のたくましさ、災害があっても、なお、この土地に生きる人々の思いを受け止め、自分なりに解釈し、租借し、工夫しながら、自らの「心」と「体」を使って、1時間30分の劇の中で精一杯表現した。このことにより、ふるさとの復興のために自分たちはどうあれば良いかを考えることができた。真正面から辛い震災体験に向き合わなければならない全校表現劇「海よ光れ」だが、逆に子ども達を強くし、地域づくり・夢づくりにつながる活動となっている。